

昔をもとめて

(中 世)

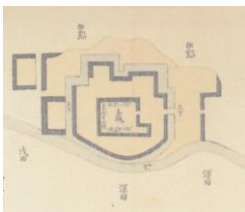
坂戸の遺跡めぐり
(その3)
大家周辺

市の歴史民俗資料館の方に協力をいただき、現地のお話をいろいろお聞きしてきました。



① [浅羽城跡]

別名萱方城ともいわれた浅羽城は、在地領主浅羽氏の城館であった。



「浅羽城図」

北には高麗川。南は
大手道を開いていた
ようである。



現在の
風景

(鶴舞)

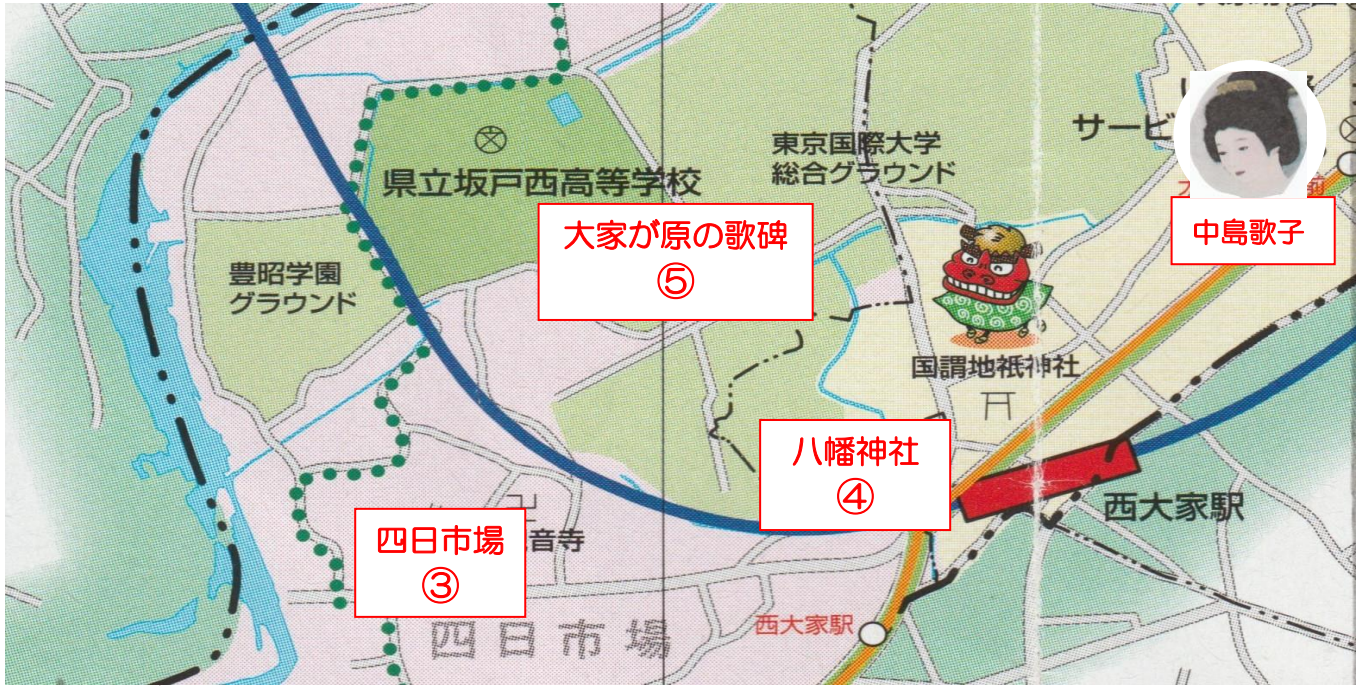
② [浅羽橋場の板石塔婆]



応長2年(1312年)
に念仏者の結衆板碑
として建てられ、市
指定である。

農民たちが団結を強
め自立的なまとまり
を示した一つである。

(浅羽)



③ [四日市場]

高麗川を利用して、材木を飯能方面から江戸へ運ぶ途中の船着場。



四のつく日に市が開かれたことから「四日市場」と呼ばれるようになったようである。

(四日市場)

④ [八幡神社]

国謂地祇神社境内にある八幡神社は、延暦年間(782~806年)に建てられたようである。領主の深津氏が代々氏神様としていた。境内では毎年10月中旬に、五穀豊穣を祈り獅子舞が行われる。(今年は15~16日) (森戸)



⑤ [大家が原の歌碑]



入間道は武蔵と上野を結ぶ官道であった。中世以降は鎌倉街道として、重要な役割をし、武将もこの道を鎌倉へと上った。



(いはずらの花)

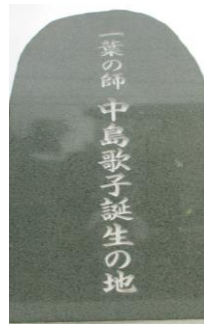
(四日市場)

入間道の
大家が原のいはるづら
ひかばぬるぬる吾にな
絶えそね

郷土の偉人も併せて紹介します。

中島歌子の記念碑

坂戸市で生まれ、樋口一葉の師でもあった歌人「中島歌子」の石碑が建てられた。



歌塾「萩の舎」を開き、千人を超える門弟を持ち、後に大学教授に…。

(参考文献・中世のさかど他)

3回にわたり、坂戸市内の昔を紹介してきました。一つひとつの文化財が、多くの市民の皆さんにより、守り継がれてきたことを、伺う話の端々で強く感じました。